

受診せず自宅療養も容認

症状軽い若年層を対象

後藤茂之厚生労働相は二十四日、新型コロナウイルスの新変異株「オミクロン株」急拡大を受け、外来医療の逼迫が想定される地域では、症状が軽く重症化リスクが低い若年層は、医療機関を受診せずに自宅療養を開始するにも認める方針を発表した。感染者が自分でウイルス検査を行い、結果を医師がいる行政の健康フローローアップセンターに連絡する。

厚労省、方針転換へ

新型コロナでは「医療機関の受診」が原則だったが、オミクロン株の特性を踏まえた事実上の方針転換。実際に新たな方針で運用するかどうかは自治体が判断する。

医療機関や保健所の負担を軽減するのが狙い。検査キットの確保や、自宅療養者の症状悪化を迅速に把握し、入院などができる体制を整えられるかが課題だ。

また医療機関で診療や検査を受けるのに一定の時間かかる場合には、発熱な

どの症状があつても、重症化リスクが低い人に限り、自らキットで検査をしてから受診するよう呼び掛けることも認める。四十歳未満で基礎疾患がない、ワクチン接種済みの人らを想定している。